

諏訪市埋蔵文化財報告第30集

ジャコッバラV

——平成6年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報——
(諏訪市霧ヶ峰ジャコッバラ遺跡群遺跡分布予備調査3)

1995. 3

諏訪市教育委員会

諏訪市埋蔵文化財報告第30集

ジャコッパラV

——平成6年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報——
(諏訪市霧ヶ峰ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査3)

1995. 3

諏訪市教育委員会

JAKOPPARA vol. V

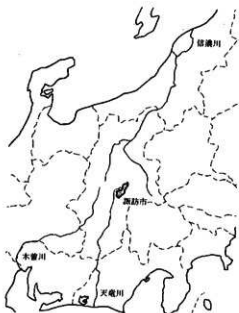
AN ARCHAEOLOGICAL SURVEY
ON JAKOPPARA SITES AT KIRIGAMINE,
NAGANO-PREFECTURE, JAPAN

1995. 3

THE BOARD OF EDUCATION
OF SUWA CITY

例 言

1. 本書は、長野県諏訪市霧ヶ峰南麓地域の平成6年度遺跡分布予備調査概要報告書である。
本分布予備調査は平成6年度国庫・県費補助事業市内遺跡発掘調査事業の一部として行われたものである。また、長野県黒曜石原産地遺跡分布調査（諏訪市）を兼ねている。
2. 本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教委の編成するジャコッパラ遺跡群調査団が調査を担当した。
3. 現場における発掘調査は、平成6年9月5日から10月27日まで実施した。報告書作成作業は平成6年12月から平成7年3月まで、諏訪市社会教育センターにおいて行った。
4. 本文中の水糸レベルは標高の絶対値で示した。
5. 現場における記録と整理事業の分担は次の通りである。
遺構等実測……青木正洋・五味裕史・関 喜子・原 敏江・矢崎つな子・両角南子
・福田理恵・茅野嘉雄・中島 透、遺物水洗・注記作業……関・原・矢崎・福田
・茅野・牛山一貴・中島 透、遺物実測及び遺構トレース・図面写真整理……茅野
・牛山一貴・中島 透・青木・五味
6. 執筆分担はⅠ 事務局、Ⅱ・Ⅲ 五味・青木、Ⅳ 五味である。
7. 調査の記録は、諏訪市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査及び報告書作成に際し、調査・整理参加者の他に下記の方々はじめ多くの方々に御指導・御教示を得た。記して感謝申し上げます。
戸沢充則・安藤政雄・酒井潤一・岡村道雄・河西学・辻本崇夫・小池幸夫・小平和夫・大竹憲昭・宮坂清・山梨文化財研究所
上桑原牧野農業協同組合・上桑原共有地組合・大建工業株式会社・渋崎建設・長野県教育委員会文化課



目 次

例 言	
目 次	
図版目次	
表 目 次	

I 調査に至る経過

1. 霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過	1
2. 過去における調査	1
3. 平成6年度調査の概要	2
4. 調査組織	3
5. 調査日誌(抄)	3

II 位置と環境

1. ジャコッバラ遺跡群を取りまく環境	5
2. ジャコッバラ遺跡群と周辺遺跡群の概要	5
3. 発掘区の位置と基本層序	10

III 平成6年度遺跡分布予備調査の概要と成果

1. KR D地区平成6年度調査区の概要と基本土層について	11
2. 各試掘グリッドの状況	13

IV 調査のまとめ

1. 検出された遺構・遺物及び遺跡立地について	53
-------------------------	----

写真図版

図版目次

第1図	ジャコッバラ遺跡群と周辺の旧石器時代遺跡群	6
第2図	調査区の区割り	7
第3図	平成6年度調査範囲と周辺の遺跡	8
第4図	平成6年度分布予備調査試掘グリッド分布図	12
第5図	KRD201グリッド土層断面図	14
第6図	KRD202～204グリッド土層断面図	15
第7図	KRD206グリッド土層断面図	16
第8図	KRD207グリッド土層断面図・遺物分布図	18
第9図	KRD208グリッド土層断面図・遺物分布図	19
第10図	KRD208グリッド出土遺物	20
第11図	KRD209～211グリッド土層断面図	22
第12図	KRD212グリッド土層断面図・遺物分布図	23
第13図	KRD212グリッド出土遺物	24
第14図	KRD213・214グリッド土層断面図	25
第15図	KRD215・216グリッド土層断面図	26
第16図	KRD217グリッド平面図・土層断面図	27
第17図	KRD218～220グリッド土層断面図	29
第18図	KRD221～223グリッド土層断面図	30
第19図	KRD224グリッド出土遺構(その1)	32
第20図	KRD224グリッド出土遺構(その2)	33
第21図	KRD225グリッド土層断面図	34
第22図	KRD225グリッド集石遺構	35
第23図	KRD225グリッド出土遺物	36
第24図	KRD226～228グリッド土層断面図	38
第25図	KRD229～231グリッド土層断面図	39
第26図	KRD232～234グリッド土層断面図	42
第27図	KRD235～237グリッド土層断面図	43
第28図	KRD238～240グリッド土層断面図	45
第29図	KRD241～244グリッド土層断面図	46
第30図	KRD245～247グリッド土層断面図	47
第31図	KRD248～250グリッド土層断面図	48
第32図	KRD251～254グリッド土層断面図	50
第33図	KRD256グリッド土層断面図	51

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	9
第2表	平成6年度KRD地区試掘グリッド一覧表	54

I 調査に至る経過

1. 霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過

霧ヶ峰高原周辺からは、火山性ガラスである黒曜石が多く産出される。和田峠周辺等の黒曜石露頭などから採取された黒曜石は、旧石器時代から縄文時代にかけて、広く関東・東海地方へ石器材料として運びだされ、利用されたことが分かっている。また、黒曜石原産地の地元である諏訪地方各地でも、黒曜石製の石器類を多量に出土する遺跡が多く発見されており、これらの遺跡は、山麓部から諏訪湖盆にかけていくつかの遺跡群を構成している。しかし、これまで黒曜石露頭付近及びこれらを取りまく山麓部については、現況が山林・草原であることから、遺跡分布を把握することが困難であった。

このような状況をふまえ、長野県教育委員会及び関係各市町村により「長野県黒曜石原産地遺跡分布調査」が計画され、各市町村による分布調査が進められる事となった。

諏訪市では、霧ヶ峰南麓一帯を覆うような形で大規模な開発計画がもちあがっており、遺跡の保護措置を協議するためにも、山麓部における遺跡の分布状況をなるべくすみやかに把握する必要があったため、文化庁及び長野県教育委員会の指導のもと、平成3年度から調査を開始した。調査予定区域内は、ほとんどが草原か林地であり、表面採集による遺跡分布の確認は不可能であったため、試掘を伴う調査を行うこととした。試掘坑は、地図及び現地踏査による地形読取から地点を選定し、掘り下げを行った。

2. 過去における調査

ジャコッバラ遺跡群に関するこれまでの調査の概要については、平成4年度の分布予備調査概報にも略述されている。過去の表面採集による分布調査では、蛇行原遺跡及び蛇行原上遺跡（現ジャコッバラNa1遺跡）と、霧ヶ峰農場遺跡が周知されており、また、北側に隣接する、国の天然記念物である踊場湿原周辺には池のくろみA～D遺跡が知られていた。

昭和62年に創価学会研修道場建設に先立つ緊急発掘調査が行われ、新たに陥し穴状遺構14基が検出された。また、旧石器が発見されたことにより、この遺跡の営まれた時代幅が大きく広がることが明らかになった。この調査の結果、遺構・遺物の出土状況や周辺地形を勘案した上で、従来「蛇行原遺跡」及び「蛇行原上遺跡」として登録されていた範囲を含む部分が、「ジャコッバラ遺跡」として統一されることとなった。

平成3年度からは遺跡分布予備調査が開始され、平成5年度までの調査で、新たに約10ヶ所の遺跡が新発見された。これらは相互に有機的な関連を有し、全体的に一つの遺跡群として捉えることができるため、「ジャコッパバラ遺跡群」として位置付けを行い、「ジャコッパバラ遺跡」を「ジャコッパバラNo1遺跡」としたほか、その後新発見された各遺跡についても「ジャコッパバラNo〇遺跡」という名称を用いることにした。平成3年度～5年度の分布予備調査では、ジャコッパバラNo2～No12遺跡が発見されている。

これらの遺跡は旧石器時代から縄文時代にわたる遺跡であり、ジャコッパバラNo8遺跡・No12遺跡のようなかなり規模の大きい石器製作址や、ジャコッパバラNo6遺跡のように縄文時代の陥し穴群が構築された狩猟場の他に、一時的なキャンプ地と考えられる比較的小規模な遺跡など、様々な性格の遺跡がこの付近に分布していることが分かった。また、旧石器時代に関して、これまで諏訪地方で明確ではなかった、ローム層中の複数の文化層を層位的に区分できる可能性が高くなってきた。ジャコッパバラNo8遺跡などでは、同一地点内での出土層位の異なる複数の石器群の存在が明らかになっている。

3. 平成6年度調査の概要

本年度の調査区であるD地区の尾根は、ジャコッパバラNo1遺跡が位置するC地区の尾根と繋がっている。この周辺は比較的幅が広い斜面が続き、土層の堆積状況も比較的よい。調査区域はほとんどが林の中であったため見通しが悪く、試掘坑の設定や分布図の作成等についてはかなり困難な状況であった。

調査方法は、地形図からの地形読み取りによって試掘坑の設定地点を決定し、各試掘坑とも2m×2mを基本に、状況に応じて1m×2m、1m×3mの試掘坑も設定した。掘り下げはすべて手掘りで行った。遺構及び土層堆積状況確認のため、ローム上面から数10cmの深さまで掘り下げることを原則としたが、遺物等の検出状況や、地山の状況に合わせて随時変更した。

各試掘坑では土層堆積状況の記録等を行い、最後にタキオメーターによって位置を地図上におとした。また、数ヶ所については分析資料取得のため土壌サンプリングを行った。

本年度は56ヶ所の試掘坑を設け、6ヶ所において遺構・遺物が検出された。これらは地形的におおよそ2つの範囲にまとめることができる。1ヶ所はD地区尾根の最南端部分の独立丘状になっている地形を中心とする区域で、尾根の頂部へと続く鞍部と独立丘の頂部、そしてその南側の尾根末端部を含む。旧石器時代の石器製作址・縄文時代の陥し穴状遺構と集石が検出された。もう1ヶ所は、やや北側のやはり独立丘状となった地形の周辺で、鞍部から縄文時代の黒曜石製石鏃が発見されている。特に尾根先端部から検出された集石遺構は火を使用した場所の痕跡である可能性が高く、ジャコッパバラ遺跡群内では数少ない縄文時代の「生活址」であるとともに、当時の狩猟活動に関係する遺構であることも考えられ、注目される。

補助事業決定の経過（抄）

平成6年7月15日付け教社第116号

平成6年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成6年7月28日付け6教社第131号

平成6年度文化財補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業（県費）

平成6年8月23日付け委保第71号

平成6年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成6年9月26日付け長野県教育委員会教育長指令6教文第2-19号

平成6年度文化財補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業（県費）

4. 調査組織

ジャコッバラ遺跡群調査団（平成6年度）

- 団長 吉田 守（諏訪市教育委員会 教育長）
副団長 伊藤文彦（諏訪市教育委員会 教育次長）
調査担当者 五味裕史（諏訪市教育委員会学芸員）
調査員 青木正洋・田中 総（諏訪市教育委員会学芸員）
調査団員（一般）小松とよみ・関 喜子・原 敏江・両角南子・矢崎つな子・宮坂茂子
・福田理恵・増沢清久・宮坂 毅・石田恒富・矢崎策郎・古畑 貞
（大学生）太田 努・茅野嘉雄・中島 透

（事務局）

- 事務主幹 宮野孝樹（諏訪市教育委員会 社会教育課長）
事務局長 藤森恵吉（諏訪市教育委員会 社会教育係長）
事務局員 五味裕史・青木正洋・宮下香奈子・田中 総
（諏訪市教育委員会 社会教育係）

5. 調査日誌（抄）

9月5日 KR D地区へ器材搬入、調査開始。草刈り機で作業用の通路を設定しつつ試掘グリッドの位置を決定し、掘り下げ開始。207グリッド黒色土中及びソフトローム中から黒曜石製石器検出。

9月9日 208グリッド漸移層中へハードローム中にかけて石器群検出。212グリッド黒色土中へハードロー

ム層中にかけて石器群検出。

- 9月12日 208グリッドハードローム下層より、地山岩登確認。
- 9月16日 221グリッドまで設定、掘り下げ開始。214グリッド基本土葬確認のための深堀開始。217グリッドローム層上面でいわゆるロームマウンドと思われる落ち込みを検出、掘り下げを行う。
- 9月19日 219グリッドまでを設定。各グリッド掘り下げ。
- 9月21日 226グリッドまでを設定。タキオメーターにてグリッド分布図作成開始。
- 9月30日 223グリッドローム上面で円形の落ち込みを確認。224グリッドで漸移層下層で陥し穴状遺構と考えられる楕円形の落ち込みを確認。2基重複している可能性もあり、落ち込みの性格・切り合い関係及び平面プランを明らかにするため半掘を開始。尾根最先端部の225グリッド黒色土中で華大鎌の集石を検出。また、同グリッドの表土中から打製石斧・凹石及び2点の縄文土器片を検出。
- 10月3日 224グリッド堆積土層断面図作成開始。225グリッドの集石は直径数10cmの円形プランであり、裏の表面が焼けていることなどから縄文時代の集石伊であると考えられる。
- 10月4日 224グリッドの落ち込みは陥し穴状遺構が2基重複したものであることが判明。うち1基の底面から炭化材を検出。また、2基とも底面に小ピットを確認。
- 10月5日 224グリッド陥し穴状遺構No1は底面主軸上に小ピット数基が並んでいる。小ピットは逆円錐形を呈しており、覆土はボソボソの土。225グリッド図面作成済続き。
- 10月6日 用水路の北側に新たに試掘坑4カ所設定。
- 10月12日 228～233グリッド掘り下げ。
- 10月14日 233グリッド黒色土中より石鏃検出。独立丘状になった尾根頂部の231グリッド完掘。黒色土・ローム層ともに薄く、現表下数10cmで岩盤露出し、遺構・遺物ともに認められない。
- 10月19日 試掘地点を徐々に北側に移動しつつ241グリッドまで掘り下げ。
- 10月24日 240グリッドまで完掘。
- 10月25日 250グリッドまで完掘。
- 10月27日 試掘KRD255グリッドまでの埋め戻し終了、器材撤収。

II 位置と環境

1. ジャコッパラ遺跡群を取りまく環境

霧ヶ峰は標高1,925mの車山を頂点に、西側に向かってなだらかに広がる広大な溶岩台地群より構成される。これらの溶岩台地は今からおよそ150万年前～数10万年前にかけての火山活動によって形成されたもので、ゆるやかな稜線へと続く雄大な草原は高山植物、湿原植物の宝庫であり、多くの貴重な種が見つかった。また、和田峠付近を中心として産出する黒曜石は安山岩質の火山ガラスであり、旧石器時代以来石器の材料として関東・中部地方全体にかけての非常に広い範囲に持ち運ばれて使用されたことが知られている。

ジャコッパラ遺跡群は、霧ヶ峰南麓の標高約1,300～1,580mの山間部に位置している。諏訪盆地の平坦部とは標高差が500m以上で、気温も年間を通じて8度ほどの差がある。従って、旧石器時代の最も寒い時期にはかなり厳しい環境下にあったと考えられる。ただし、時代によってかなり気候の変動があったことがわかっており、昭和62年に行われたジャコッパラ遺跡（ジャコッパラNo.1遺跡）の調査では、約五千数百年前（縄文時代前期後半頃）の陥し穴状遺構の中からススキ・ヨシの他にコナラ・クリ等やケンボナシなどの落葉広葉樹の植物遺体が見つかった。

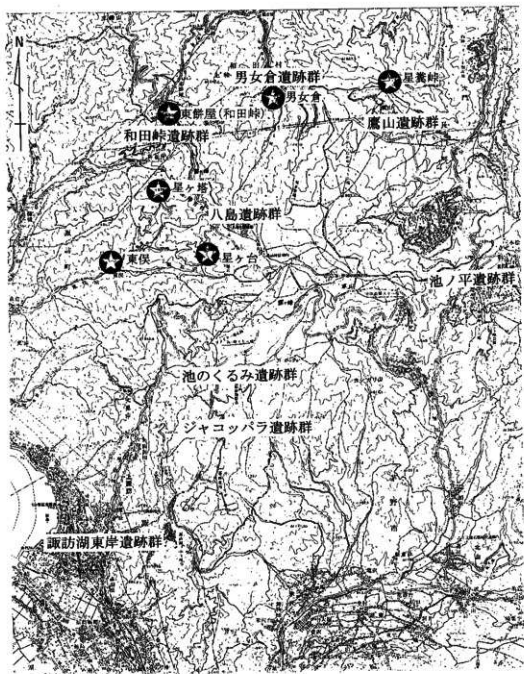
ジャコッパラ遺跡群付近の地形は、溶岩台地とそれを南北方向に区切る谷によって幾つかのまとまりに分割することが可能であり、調査にあたっては谷などを境界としてA～E地区を設定した。それぞれの尾根は階段状に延びており、尾根筋の所々に独立丘状の小ピークが認められる。この区域一帯はかつて牧草地であったが、戦後カラマツなどの植林が行われたため、現在はほとんどが林地である。なお、これまで霧ヶ峰南麓には数ヶ所の湿地が存在することがわかっている。

2. ジャコッパラ遺跡群と周辺遺跡群の概要

霧ヶ峰南麓地区は、尾根状の台地群とそれらを区画する谷・湿地などによって構成されるが、ここは、和田峠をはじめとする黒曜石原産地に非常に近いことから石器時代における石材供給ルートの要にあたり、旧石器時代の遺跡が濃密に分布することが知られている。

国の天然記念物である踊場湿原の周縁に展開する池のくろみ遺跡群では、台形様石器やナイフ形石器を含む石器群が出土しているほか、黒曜石露頭群により近い北側には八島遺跡群などの旧石器時代遺跡群が展開している。また、尾根一つ隔てた北側には、縄文時代早期の細久保式土器の標識遺跡である細久保遺跡が位置している。

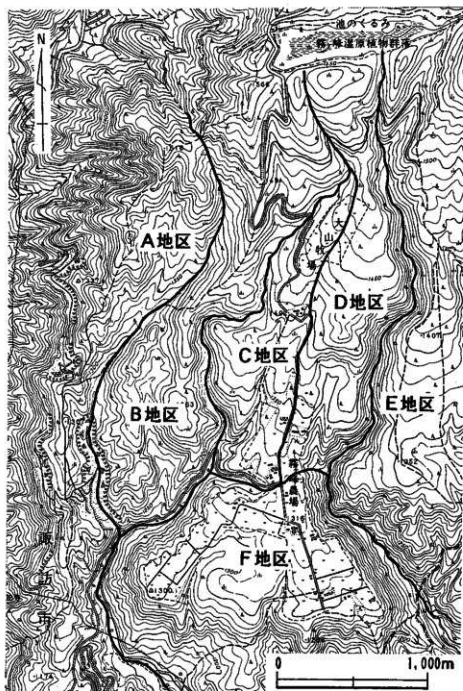
昭和61年から62年にかけて緊急発掘調査の行なわれたジャコッパラ遺跡（ジャコッパラ



★.....黒曜石原産地



第1図 ジャコッバラ遺跡群と周辺の旧石器時代遺跡群



第 2 図 調査区の区割り



第 3 図 平成 6 年度調査範囲と周辺の遺跡

地区	番号	遺跡名	所屬時期	市内番号	調査歴
地区外	①	細久保遺跡	縄文早・前期, 弥生中期	409	昭和25・26年, 一部発掘調査
C・D	②	霧ヶ峰農場遺跡	旧石器, 縄文前期, 中世	411	昭和54年, 遺物採集により発見
調査	③	池のくるみA遺跡	旧石器, 縄文早・前・中期, 平安	412	
	④	池のくるみB遺跡	旧石器, 縄文早期	413	
	⑤	池のくるみC遺跡	旧石器, 縄文早期	414	昭和42年, 一部発掘調査
	⑥	池のくるみD遺跡	旧石器, 縄文早・前期, 平安	415	
C	⑦	ジャコツバラNo.1遺跡	旧石器, 縄文前期? (陥し穴)	418	昭和62年, 一部発掘調査
B	⑧	ジャコツバラNo.2遺跡	旧石器	431	平成元年, 遺物採集により発見
B	⑨	ジャコツバラNo.3遺跡	旧石器, 縄文?	432	平成3年, 分布調査により発見
B	⑩	ジャコツバラNo.4遺跡	旧石器, 縄文早期 (陥し穴)	433	平成3年, 分布調査により発見
B	⑪	ジャコツバラNo.5遺跡	旧石器	434	平成3年, 分布調査により発見
B	⑫	ジャコツバラNo.6遺跡	旧石器, 縄文? (陥し穴)	435	平成4年, 分布調査により発見
D	⑬	ジャコツバラNo.7遺跡	縄文?	436	平成4年, 分布調査により発見
D	⑭	ジャコツバラNo.8遺跡	旧石器, 縄文? (陥し穴)	437	平成4年, 一部発掘調査
C	⑮	ジャコツバラNo.9遺跡	縄文早期	438	平成4年, 分布調査により発見
C	⑯	ジャコツバラNo.10遺跡	縄文早・中期	439	平成4年, 分布調査により発見
C	⑰	ジャコツバラNo.11遺跡	縄文早期 (陥し穴)	440	平成4年, 分布調査により発見
B	⑱	ジャコツバラNo.12遺跡	旧石器, 縄文	441	平成5年, 一部発掘調査

(『諏訪市の遺跡』を基に作成)

第1表 周辺遺跡一覽表

№1遺跡)では、ナイフ形石器・尖頭器等旧石器時代の遺物や、縄文時代の狩猟用の陥し穴が検出された。その後の調査でジャコッバラ№4・6・8・11遺跡からも陥し穴状遺構が検出され、黒曜石原産地関係遺跡群の他に狩猟関係遺跡の存在も確認されている。従って旧石器時代のみならず縄文時代以降の人々にとってもこの山麓は、黒曜石の他に動・植物資源などさまざまな資源の確保に利用されていたものと思われる。

3. 発掘区の位置と基本層序

本年度調査区の尾根は、踊り場湿原の南から霧ヶ峰農場付近まで続いている。東側は急な斜面となって檜沢川に接しており、西側にはいくつかの支谷が入るが比較的緩やかに広がっている。調査区内の尾根筋には2ヶ所の独立丘状の小ピークがあり、それぞれがピーク北側に鞍部状の地形を有する。また、調査区の北には宗教法人の研修道場敷地(ジャコッバラ№1)が隣接しているがこの辺りの尾根の幅が一番広く、さらに北側のジャコッバラ№8遺跡へ近づくにつれて再び瘦せ尾根となる。標高は1,330m~1,450mである。

尾根には南側(末端側)から谷が入り込んでいるため、途中から二股になっており、東側の尾根は最後は瘦せ尾根となって檜沢川の方へ下っている。

各試掘地点の地形は、かなり多様であるため、土層の堆積状況は各地区必ずしも一様ではないが、基本的には地表から(耕作土)→黒色土→漸移層→ローム層という単純な堆積状態を示す。土層の堆積が一番安定していると思われるのは尾根末端部側の独立丘上と区域北側よりの広い斜面部分で、独立丘上に位置するKRD214グリッドでは深掘を行った結果、3m以上のローム土の堆積が認められている。一方、北側の独立丘頂部付近では現地表下数10cmで地山の安山岩質の岩盤が露出し、ローム土の堆積はごくわずかしか認められない。ただし、ローム土の比較的厚い堆積が認められる地点同士の間でも堆積土層や層序は必ずしも同一ではないことから、地点・地形による堆積状況の相違や、諸要因による堆積後の土の移動のあり方の相違がかなり顕著であることも考えられる。

なお、調査区域内には踊り場湿原直下から取水した用水路が通っている。

III 平成6年度遺跡分布予備調査の概要と成果

1. KR D地区平成6年度調査区の概要と基本土層について

本年度の調査区は、D地区の尾根筋南半を中心に試掘坑を5ヶ所設定した。南北にのびる尾根の東斜面は非常に急な斜面となっており、踊り場湿原を水源とする檜沢川に区切られている。西側は比較的ゆるやかな谷を経てC地区の尾根に続く。

前述のようにこの尾根には南側から谷が入り込んでおり、末端が二股に分かれている。本年度はこのうち東側の尾根筋を中心に試掘坑を設定した。KR D地区内では、すでに平成4年度に踊り場湿原の近くで試掘坑を20数か所(KR D1~23グリッド)設定してあるが、本年度の試掘坑の番号は便宜的に、設定の順でKR D201グリッドから付していった。

調査区域の土層堆積状況は前章でも述べたように地区毎にかなり異なっているが、以下に一般的な堆積状況について概要を説明する。

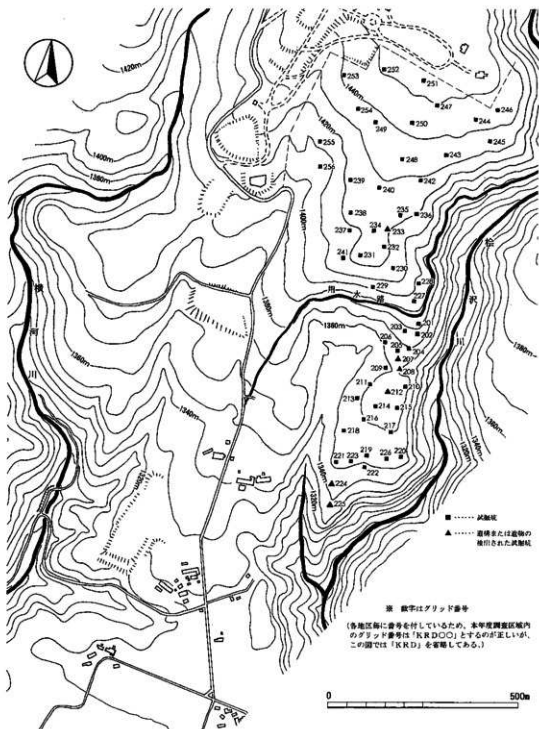
黒色土(表土:1層)は通常数10cmの堆積のみられ、ソフトローム層との間には漸移層(2層)が認められる。

いわゆるソフトローム層はやや白味がかった黄褐色で、白色の粒子を少量含む(3a層)。ソフトロームは地点によっては2層に分層する事が可能であり、この場合には下半に黄味のやや強くて若干緻密な層(3b層)が入る。ただし、この3b層は3a層との境界がぼやけてしまって境界線を明確に設定できない場合も多い。従って、3b層が、3a層と考古学的に異なる性質を持った堆積土層であるのか、それとも3a層の下半(またはハードロームの上層)が何らかの要因で「変質」したものであるかどうかを現時点で判断することはできない。

いわゆるハードローム層の堆積状況や堆積土層は地点によって全く異なっているため、現時点では対比が非常に困難である。しかし、ハードロームの1層目ないし2層目中に特徴的な「火山砂」のブロックが確認される地点がかなり多いため、これが今後各地点の土層対比を進める場合の一つの手がかりとなる可能性もある。

本年度調査区では尾根筋上に2ヶ所の小ピークが存在するが、北側の小ピーク頂部付近からその南側斜面にかけては土の堆積が比較的薄く、たとえば頂部に設定したKR D231グリッドでは地山の岩盤上のローム土の堆積は30cmであるのに対して、南側の小ピーク頂部に設定したKR D214グリッドでは2m以上の堆積が確認されている。本年度調査区北端側の斜面でもかなり厚いロームの堆積が認められた。

周辺部における昨年度までの調査の結果からは、一見地形的にも安定しているように思われ厚



第4図 平成6年度分布子備調査試掘グリッド分布図 (S=1/10,000)

い土層堆積が認められる地点でも、必ずしも連続的な安定した土層の堆積が行われていたとは限らないことがわかっている。今後は霧ヶ峰南麓全体の土層堆積状況の把握を進めると同時に自然科学的な分析も含めた各地点間の土層対比を行っていくことが重要な課題である。

2. 各試掘グリッドの状況

KRD201グリッド

北側の小ピークと南側の小ピークを結ぶ尾根筋上に位置する。本グリッドは土層の堆積状況が他の地点とは異なっており、現地表下1mほどまではかなりボソボソのソフトローム土が堆積している。

4～5層にかけては白色の粒子を含み、ローム層の下半は砂を多量に含む層が水平に交互堆積している。これらの土層も多量の白色粒子を含む。また、1cm以下の小礫も多く含んでいる。現地表下約2mで地山岩盤の上面と思われる安山岩質の礫層を確認した。

尾根筋の頂部のかなりの傾斜を有する斜面にこのような水平堆積が認められる点は興味深い。これらの堆積土層は、数センチ厚で水平に交互堆積していることや砂を多量に含んでいることなどから、水成層であるものと思われる。地表に堆積したものであるのか、地下水の影響によるものであるのかは不明である。

この地点は前述のようにかなりの傾斜地だが、試掘坑の周囲のみごくわずかに傾斜が緩くなっているため、その微地形が反映された土層堆積であるのかもしれない。この水成層の面的な広がりについては確認を行っていない。

遺物は検出されなかった。

KRD202グリッド

KRD201グリッドの南側に位置する。KRD201グリッド同様尾根筋の頂部にあたる。

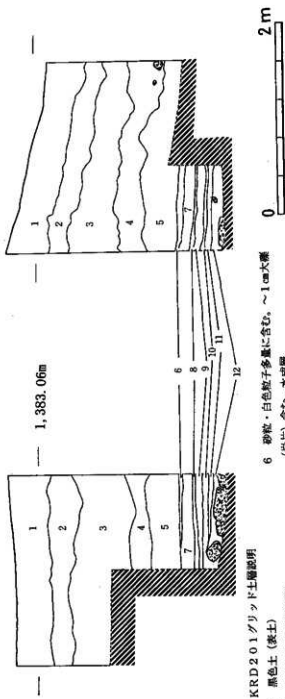
ここには等高線沿いに道の跡らしきものが残っているためか表土が薄い。また、漸移層は残存しておらず、表土直下に締まりの悪いボソボソのソフトローム層が検出されたため、当初このボソボソのローム土は道に関係する攪乱かとも思われたが、掘り下げを進めた結果、攪乱ではないことが判明した。下層からは201グリッドのような砂層は検出されなかった。

遺物は検出されていない。

KRD203グリッド

KRD202グリッドの西側にあたる。尾根筋をややはずれた南西向きの斜面である。

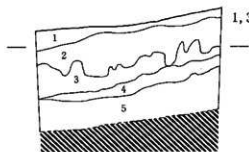
土層堆積図にはかかっていないが、現地表下80cm～1mほどで10数cm～数10cm大の自然礫が検出された。おそらく上方からの崩落によるものであると思われる。



KRD201グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
均一だがややボソボソしている。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
- 5 5mm~10cm大礫・白色粒子含む。赤色コリア若干含む。ややボソボソ。
- 6 6より密でボソボソしない。白色粒子多量を含む。赤色コリア含む。~1cm大礫 (岩片) 含む。
- 7 砂粒・白色粒子多量を含む。~1cm大礫 (岩片) 含む。水成層。
- 8 5に似るがスコリア少ない。水成層。
- 9 6に似るが6より白色粒子やや少ない。水成層。
- 10 5に似るが白色粒子5よりやや少ない。水成層。
- 11 6に似る。白色粒子多量を含む。水成層。
- 12 5に似る。水成層。
- 13 6に似る。水成層。

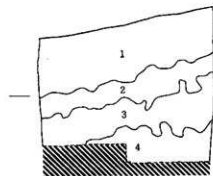
第5図 KRD201グリッド土層断面図 (S=1/40)



1,375.50m

KRD202グリッド土層説明

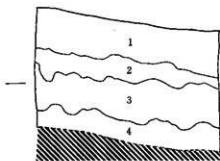
- 1 黒色土 (表土、流れ込みか)
砂質ローム混入。
- 2 黄褐色土 (ソフトローム)
しまり弱く粘性弱い。
- 3 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
やや軟質でボソボソする部分あり。火山砂
ブロック・スコリア粒少量含む。
- 4 明褐色土
5より軟質。粘性・しまりあり、スコリア
粒少量含む。
- 5 褐色土
非常にかたい。やや水っぽく粘性強い。白
色粒子・スコリア粒若干含む。



1,376.46m

KRD203グリッド

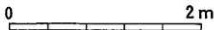
- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
塵・白色粒子若干含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
細塵多量に含む。スコリア粒・白色粒子若
干含む。



1,368.00m

KRD204グリッド

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい色だが、下半はやや黄味が強
い。スコリア粒わずかに含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
スコリア粒・白色粒子少量含む。



第6図 KRD202~204グリッド土層断面図

遺物は検出されていない。

KRD204グリッド

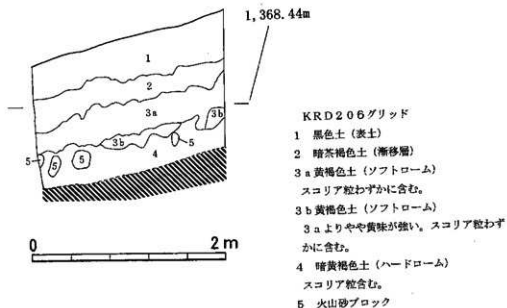
KRD202グリッドの南側、尾根筋上に位置する。この辺りから傾斜が緩やかになり、南側の小ピーク手前の鞍部へと続く。土層堆積状況はKRD203グリッドとよく似ているが、礫の検出はみられなかった。

KRD205グリッド

KRD204グリッドから尾根の西側斜面に少し入った場所に位置する。KRD203・204グリッドと同様の土層堆積状況を示すが、ソフトローム下半に黄味の強い層（3b層）が入る。遺物や礫は検出されていない。

KRD206グリッド

KRD205グリッドの西側に位置する。205グリッドに似た土層堆積状況だが、ハードロームの1層目に火山砂のブロックが入る。この火山砂ブロックはスコリア粒・砂粒等を多く含み、しまりの強い層である。ソフトローム下半（3b層に相当か）は、3a層よりもしまりがあり、どちらかというハードローム的である。遺物等は検出されていない。



第7図 KRD206グリッド土層断面図（S=1/40）

KRD207グリッド

南側の小ピークへと続く鞍部のやや北よりにあたる。

KRD206グリッドと同様、ハードローム上面付近に火山砂ブロックが入る。また、ハードローム最上層で数10cm大の自然礫を検出した。

KRD207グリッドでは遺物が2点出土した。1点は縁辺の一部に使用痕あるいは2次調整と考えられる連続的な小剥離を有する縦長の剥片で、長さ4.5cm、幅2.5cm程のものである。黒色土（表土）の最下層から検出された。もう1点は2次加工を有する縦長剥片で、背面には打点側からファシット様の剥離が入る。縦長剥片の途中で折損または折断したものと思われ、打点側のみが残存する。背面の稜上にはこの折断面を打面とした小剥離が見られる。1側縁には使用痕と考えられる連続的な小剥離を有し、長さ3.3cm、幅2.4cm程である。ソフトローム（3a層）の最下層付近からの出土である。

KRD208グリッド

南側小ピーク手前鞍部の最も低い場所付近に位置する。やや檜沢川よりの、尾根から東斜面への落ち際にあたる。このグリッドでは火山砂ブロックが確認されておらず、現地表下約2mで安山岩質の礫が検出された。従って、ロームの堆積は比較的薄いことが予想される。また、ソフトローム下半（3b層）からハードロームにかけては堆積土層の色調がやや白っぽいなど、水の影響を受けていると考えられる。

本試掘グリッドからは黒曜石製石器類のブロックが検出されている。内容は、一側縁に連続的な小剥離を有する剥片1点、その他の剥片類4点、黒曜石原石1点の合計6点である。黒曜石原石は重さ1.2gの小指の先大のもの、剥片類も長さ1.5～2.5cm程の小型のものであり、調整剥片を含む可能性がある。出土層位は、漸移層2点、ソフトローム最上層1点、ソフトローム上半（3a層）1点、ソフトローム下半（3b層）2点であり、垂直分布の中心はソフトローム中にある。旧石器時代に属するものであろう。遺物分布はグリッド北半に偏りを見せるため、このブロックはここから北側に向けて広がっている可能性がある。遺構の規模や他のブロックの存在については明かではない。

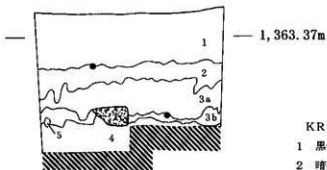
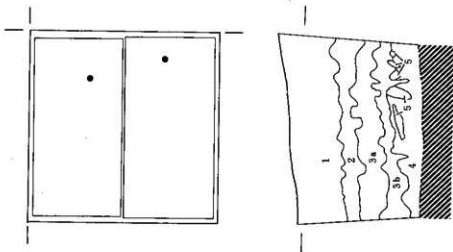
KRD209グリッド

KRD208グリッド同様鞍部に位置する。KRD208グリッドとは尾根筋を挟んで反対側の西側斜面への落ち際にあたる。ソフトロームは3a層・3b層相当の2層に分かれているが、3b層とハードロームの5層は5mm大以下の安山岩の腐れ小礫を含む。

遺構・遺物は検出されていない。



KRD207グリッド

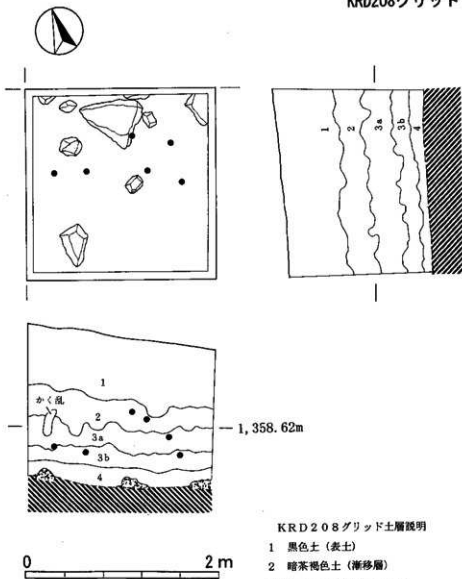


KRD207グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白みがかっている。
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
スコリア粒少量含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
火山砂ブロック多量に含む。
- 5 火山砂ブロック

第 8 図 KRD207グリッド土層断面図・遺物分布図 (S=1/40)

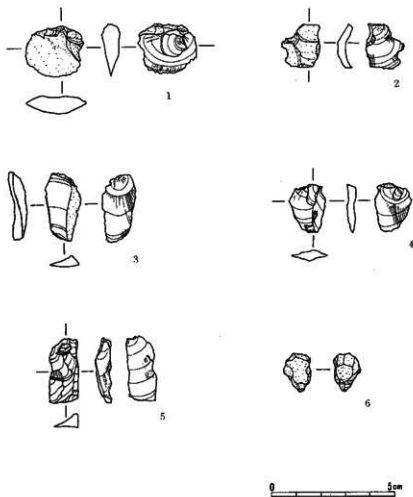
KRD208グリッド



KRD208グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
3 a と色調同じだがやや硬い、白色粒子若干含む。やや「水つきローム」気味。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
他の地点に比べて白っぽい。粘性・しまり強く、やや粘土質？白色粒子・細礫・礫多量に含む。

第 9 図 KRD208グリッド土層断面図・遺物分布図 (S=1/40)



第10図 KRD208グリッド出土遺物

KRD210グリッド

南側小ピークの北東側の縁に位置する。ハードルームの上層はボソボソで、削ろうとするとブロック状に崩れてしまう。KRD215グリッド同様に水気が少ない土である。

KRD211グリッド

南側小ピークの北西側の縁に位置する。遺構・遺物等は検出されていない。

KRD212グリッド

南側小ピークの中央、台地頂部に位置する。この小ピークの頂部は、南北約250m、東西約170mほどの平坦部を有するが、その中でも最も標高の高い標高約1,364m付近にあたる。

本グリッドでは台形様石器を含む黒曜石製石器類のブロックが検出された。遺物分布はグリッドの南半分に偏りを見せるため、遺構は本グリッドから南側へ向かって拡がっている可能性があるが、遺構の規模は明確でない。

出土遺物はフレイク5点、台形様石器1点の計6点である。出土層位は、黒色土(表土)1点、ソフトローム(3a層)2点、ソフトローム(3b層)2点、ソフトローム最下層1点で、分布の中心はソフトローム中にあるものと思われる。

台形様石器は幅広の剥片を素材としており、右側縁には素材剥片の打面を残す。長さ4.1cm、幅2.9cmを測る。

なお、本グリッドではテフラ等の分析のため、表土から5cm毎に土壌のサンプリングを行った。今後、分析を進める中で石器の出土層位や年代について、より明らかになっていくものと思われる。

KRD213グリッド

南側ピークの平坦部の東側縁辺部に位置する。遺構・遺物は検出されていない。

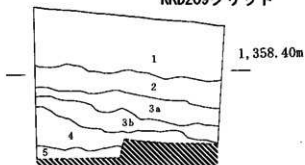
KRD214グリッド

KRD212グリッドの南西約50mに位置する。本グリッドは南側ピークの平坦部中央部付近にあたり、安定した土層堆積が予想されたため、深堀を行った。ハードルームの下層にいくに従い、白色粒子(岩片)をより多く含むようになる。こういった白色の粒子は、過去から本年度にかけての調査でも検出されているが、特に地山の岩盤近くに行くほど顕著に含んでいることが多い。

現地表下約2.8mまで掘り下げを行ったが、地山の岩盤を確認する事はできなかった。

本グリッドからは遺構・遺物は検出されていない。また、自然化学分析のために土壌サンプリングを行った。

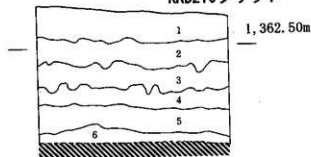
KRD209グリッド



KRD209グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
柔らかく、粘性あり。
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
3 a よりしまり強い。～5mm大の安山岩礫含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
やや硬くしまり強い。
- 5 暗黄褐色土
4に比べ水っぽい。～5mm大の安山岩礫含む。

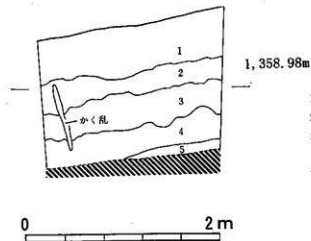
KRD210グリッド



KRD210グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
火山砂ブロック少量含む。それ以外の部分はボソボソで、ブロック状に崩れる。
- 5 暗黄褐色土
スコリア粒多量に含む。6に比べ軟質。
- 6 暗茶褐色土
非常に硬い。白色粒子・スコリア粒少量含む。5より粘性弱い。

KRD211グリッド

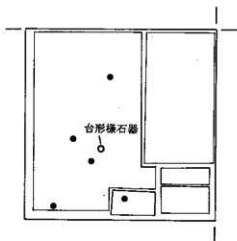
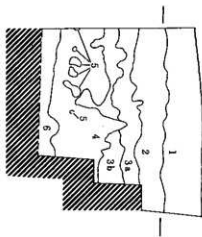


KRD211グリッド土層説明

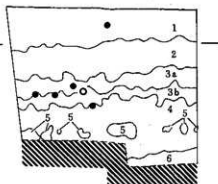
- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
礫・白色粒子若干含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
細礫多量に含む。スコリア粒・白色粒子若干含む。
- 5 暗黄褐色土
4より硬質で水っぽく、粘性強い。スコリア粒多量に含む。白色粒子若干含む。

第11図 KRD209～211グリッド土層断面図 (S=1/40)

KRD212グリッド



1,363.38m



KRD212グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3a 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい。
- 3b 黄褐色土 (ソフトローム)
3aより暗。白色粒子若干含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア少量含む。3bより暗。
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
白色粒子・～5mm大スコリア含む。特にし
まり強い。



第12図 KRD212グリッド土層断面図・遺物分布図 (S=1/40)

KRD215グリッド

南側小ピークの平坦部東端に位置する。

ハードロームの上層は水分が少なく、ボソボソしている。これは斜面への落ち際にあたることが原因とも考えられる。この小ピークの平坦部の西縁から谷まで標高差は20mほどであるのに対し、東側は急な傾斜で檜沢川の谷底まで約100mの比高差がある。

KRD216グリッド

KRD214グリッドの南西側に位置する。KRD213グリッドなどと同様の土層堆積状況を示す。

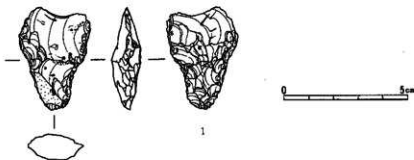
KRD217グリッド

小ピーク平坦部のやや南東よりに位置する。ローム上面まで掘り下げを行ったところ、落ち込みを確認した。黒色土の中にローム土が島状に入っている。堆積土層の状況からこの落ち込みは風倒木痕であると考えられる。規模はおそらく直径3~4mほどであると思われ、風倒木は堆積土層の断面等から東側に向けて倒れたものと思われる。

断面精査の結果、この風倒木痕は黒色土（表土）の中程から落ち込んでいることがわかった。遺物は検出されていない。

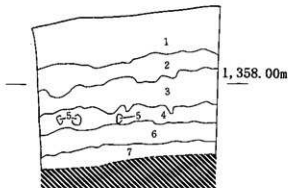
KRD218グリッド

KRD213グリッドの南側に位置する。KRD213グリッドと同様の土層堆積状況を示す。遺構・遺物は検出されていない。



第13図 KRD212グリッド出土遺物

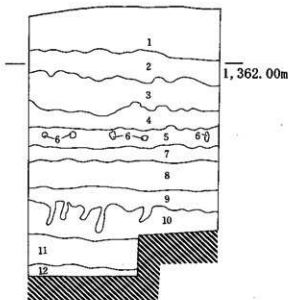
KRD213グリッド



KRD213グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい、下半は色が濃い。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア粒少量含む。火山砂ブロック含む
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
スコリア粒多量に含む。
- 7 暗黄褐色土
5より暗。スコリア粒子は5よりやや少ない。

KRD214グリッド



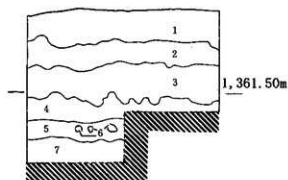
KRD214グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム: 3 a 層)
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア粒・白色粒子わずかに含む。ややボソボソぎみ。
- 5 暗黄褐色土
4よりやや暗い。スコリア粒・白色粒子少量含む。しまり強く硬質。火山砂ブロック多量に含む。
- 6 火山砂ブロック
- 7 5よりやや軟質。スコリア粒5より若干多い。
- 8 7に似るが7より軟質で粘性強い。7よりスコリア粒・白色粒子やや少ない。
- 9 6~8に比べ白みがかっている。軟質で粘性強く、8よりスコリア粒・白色粒子多い。
- 10 暗褐色土
火山砂ブロックと同じ。スコリア粒・黒色粒子多量に含み、非常に硬くシャリシャリしている。しまり強く白色粒子わずかに含む。
- 11 10に似るが、白色粒子10より多い。
- 12 11に似るが11より白色粒子多く含む
やや軟質気味。



第14図 KRD213・214グリッド土層断面図 (S=1/40)

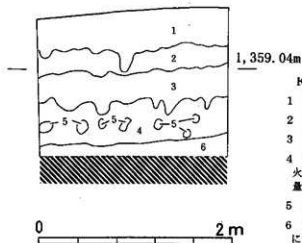
KRD215グリッド



KRD215グリッド

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
水気なくボソボソ。スコリア粒・白色粒子
若干含む。
- 5 暗黄褐色土
4より暗。4よりやや硬く、粘性あり、火
山砂ブロック多量に含む。スコリア粒少量
含む。
- 6 火山砂ブロック
- 7 暗黄褐色土
5より明。スコリア粒子は5より少なく、
白色粒子やや多い。

KRD216グリッド

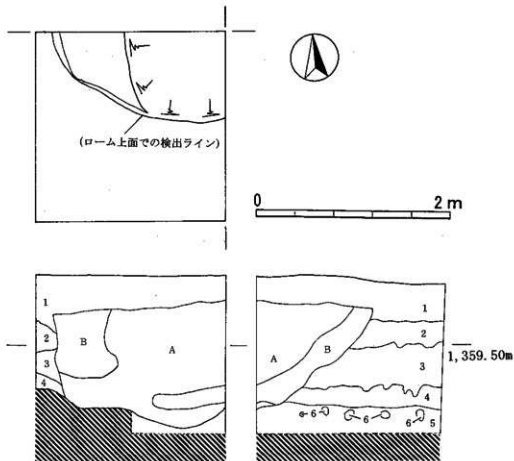


KRD216グリッド

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
火山砂ブロック多量に含む。スコリア粒少
量含む。白色粒子若干含む。
- 5 火山砂ブロック
- 6 4と同じだがやや軟質。スコリア粒多量
に含む。

第15図 KRD215・216グリッド土層断面図 (S=1/40)

KRD217グリッド



KRD217グリッド

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
水気なくボンボン。スコリア粒・白色粒子若干含む。
- 5 暗黄褐色土
4より暗。4よりやや硬く、粘性あり、火山砂ブロック多量に含む。スコリア粒少量含む。

6 火山砂ブロック

- (風倒木痕覆土)
- A 黄褐色土 (ローム土)
ハードロームブロック含む。
- B 黒色土
ローム粒含む。

第16図 KRD217グリッド平面図・土層断面図 (S=1/40)

KRD219グリッド

平坦部の南端に位置する。斜面はここから南側に向けて徐々に傾斜を強めていく。
土層堆積状況は212グリッドによく似ている。遺構・遺物は検出されていない。

KRD220グリッド

KRD219グリッドの南側に位置する。KRD219グリッドよりも傾斜は強い。
土層堆積状況はKRD219グリッドと同じである。遺構・遺物は検出されていない。

KRD221グリッド

平坦部の南西端に位置する。

土層の堆積状況は218グリッドと同様であるが、この辺りではソフトロームが確認されない場所があるらしい。第8図に示した土層堆積図はグリッド北壁面のものであるが、グリッド東壁面ではソフトロームが確認されていない。

遺構・遺物は検出されなかった。

KRD222グリッド

219グリッドの南側に位置する。

土層堆積状況はKRD219グリッドに似るが、火山砂ブロックはハードローム中にあまり入らない。

遺構・遺物は検出されなかった。

KRD223グリッド

KRD219グリッドとKRD221グリッドの中間付近に位置する。

土層堆積状況はKRD221グリッドによく似ている。

遺構・遺物は検出されなかった。

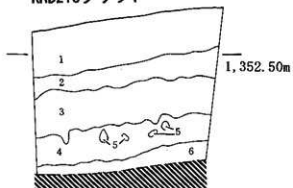
KRD224グリッド

南側の小ピーク末端の尾根上斜面に位置する。

本グリッドからは陥し穴状遺構が2基検出された。

当初2m×2mの試掘坑を設定して掘り下げを行ったところ落ち込みの一部をローム上面にて検出したため、一部拡張を行った結果、長径2.2mほどの楕円形を呈する落ち込み(1号小墜穴)と、それに重複する別の落ち込み(2号小墜穴)の一部が確認された。落ち込みの性格と遺構の切り合い関係を確認するためにセクションベルトを設定して覆土の掘り下げを行った結果、これらが2基の陥し穴状遺構が重複したものであることがわかった。

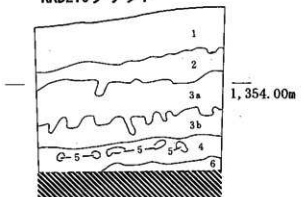
KRD218グリッド



KRD218グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい、下半は色が濃い。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア粒少量含む。火山砂ブロック含む。
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
スコリア粒多量に含む。

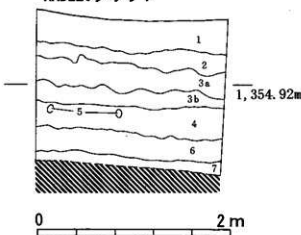
KRD219グリッド



KRD219・220グリッド土層説明

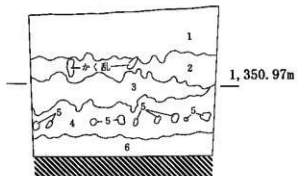
- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい。
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
3 a より暗。白色粒子若干含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア少量含む。3 b より暗。
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
白色粒子・～5mm大スコリア含む。特にし
まり強い。

KRD220グリッド



第17図 KRD218～220グリッド土層断面図 (S=1/40)

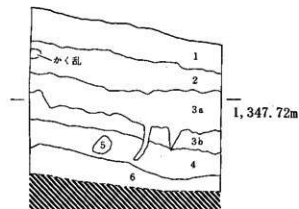
KRD221グリッド



KRD221・223グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい、下半は色が濃い。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア粒少量含む。火山砂ブロック含む。
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
スコリア粒多量に含む。

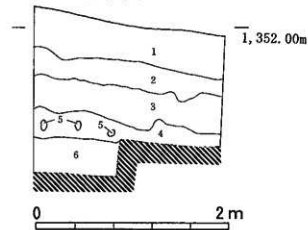
KRD222グリッド



KRD222グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
やや白っぽい。
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
3 a より暗。白色粒子若干含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア少量含む。3 b より暗。
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
白色粒子・ $\sim 5\text{mm}$ 大スコリア含む。特にし
まり強い。

KRD223グリッド



第 18 図 KRD221～223グリッド土層断面図 (S=1/40)

陥し穴状遺構の検出面はローム上面だが、検出面の上には薄いローム質の層が1枚堆積している。この土層は他の地点の漸移層よりも明るい色を呈しており、2次堆積土層である可能性が高い。しかし、この地点は覆せた尾根の落ち際となっているため、どのように供給された土であるのかは不明である。

1号小竪穴は長径約2.2m、短径約1.1mの楕円形を呈し、検出面から底面までの深さは約1.5mを測る。当初一部が試掘坑外にかかっていたが、遺構の性格・プラン確認のために試掘坑の拡張を行い、完掘した。遺構の長軸は尾根筋の軸に対してほぼ垂直の東西方向に設定されている。遺構の横断面はV字形で、底面には長軸に沿って数基の小ピットが検出された。覆土の堆積状況は、周辺遺跡でこれまでに見つかっている陥し穴状遺構一般とおおよそ共通のあり方を示す。底面付近に暗褐色土が堆積し、覆土中層は人為的な埋め戻しの結果と考えられるハードロームブロックを多く含むしりのないボソボソのローム土であり、その上に自然堆積と思われる黒色土が流れ込んで窪みが完全に埋まっている。

底面に確認された小ピットは検出面では直径数cmだが、小ピットの底に向けてテーパー状に細くなっており、断面形がV字状になる。これは坑底施設構築にあたり、穴を掘って杭状のものを立てた後まわりに土を埋めて固めたのではなく、先をとがらせた杭状のものを遺構底面に直接打ち込んだ結果であると考えられる。従って、小ピットの大きさは底部に立てられていた杭状のもの（逆茂木？）の太さを反映しているとも考えられる。これに対して2号小竪穴の小ピットは断面がU字形であり、坑底施設の構築方法が若干異なっていた可能性もある。本遺構は2号小竪穴に切られる。覆土中から遺物の出土は見られなかった。

2号小竪穴は、長軸方位が1号小竪穴と約90度異なる。当初の試掘坑掘り下げ時に1号小竪穴との重複部付近が検出されたため試掘坑を北側に拡張し、平面プランを確認した。拡張部分についてはプランの確認のみを行い、掘り下げは行わなかった。

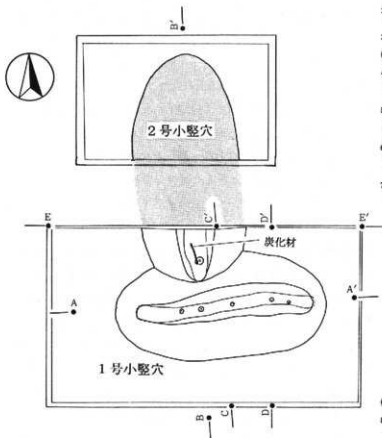
規模は推定長径2.6m、短径1.1mであり、底面には1号小竪穴同様に長軸に沿って数基の小ピットを有する。

2号小竪穴の覆土下層からは炭化材が検出された。約2cm×10数cmの枝状または棒状(?)を呈するらしいが、痕跡的に残存する程度であったので、形を残したまま取り上げることはできず、小さな塊状の炭を数点得たのみである。このほかにも数mmから1cm大の炭を何点か検出している。火を受けて焼けて炭化したものと思われるが、性格は不明である。

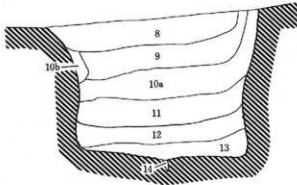
なお、両遺構の掘り下げを行った部分については、調査後土のう埋納による保護処置を行って埋め戻した。

2基の陥し穴状遺構は、底部の小ピットの形態が異なること、長軸方位が約90度異なること、覆土は1基が自然堆積により完全に埋没した後もう1基が掘り込まれている状況を示していること等から、「偶然」に同じ場所に構築されたものであると考えられる。しかし、2基の陥し穴がこの長い尾根全体の中で重複して構築されているという事実は、時間的な差を有するにも関わら

KRD224グリッド



A
1, 343. 50m



0 2 m

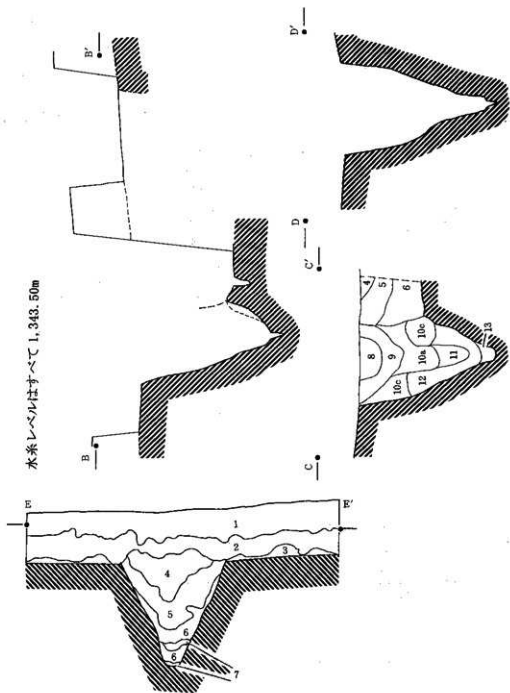
KRD 2 2 4 グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層または2次堆積土)
茶褐色のスコリア粒・バミス粒含む
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
- (4～7: 2号小堅穴覆土)
- 4 黒褐色土
細礫多量に含む。スコリア粒・白色粒子若干含む。
- 5 暗黄褐色土 (ローム質)
ローム小ブロック・ローム粒と黒色土粒の混土層。
- 6 黄褐色土 (ローム質)
しまりやや弱く、ハードロームブロック多量に含む。
- 7 暗黄褐色土 しまり弱く、ローム小ブロック含む。炭化材を含む。

(8～13: 1号小堅穴覆土)

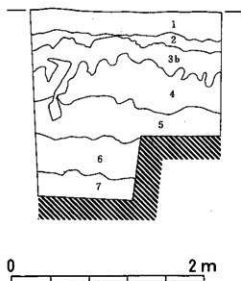
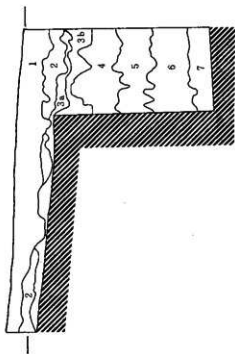
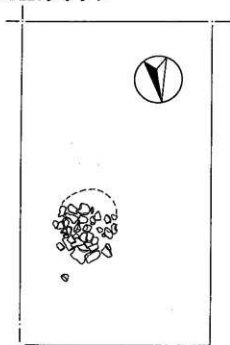
- 8 黒色土
ローム粒多量に含む。
- 9 黒褐色土
8より明、ローム粒は少なくロームブロック少量含む。上層はしまり弱い。
- 10 a 暗黄褐色土
9と同じ土にロームがブロック状に1:1の割合で入る混土層。ボンボン。
- 10 b 暗黄褐色土
10 aにロームブロックが1:2の割合で入る混土層。
- 10 c 暗黄褐色土
ソフトローム対10 aが2:1の混土層。しまり弱い。
- 11 黄褐色土
ハードロームブロック主体、10 aを若干含む。
- 12 黄褐色土
～2.0m大のハードロームのブロック多量に含む。しまりが無いボンボン土。
- 13 暗褐色土
12より細かい粒状のロームブロック含む。粘性やや強い。
- 14 底部小ピット層土。ローム土に黒色土粒少量混じる混土層。しまりなくボンボン。

第 19 図 KRD224グリッド出土遺構 (その1)



第20図 KRD224グリッド出土蘇構(その2)

KRD225グリッド



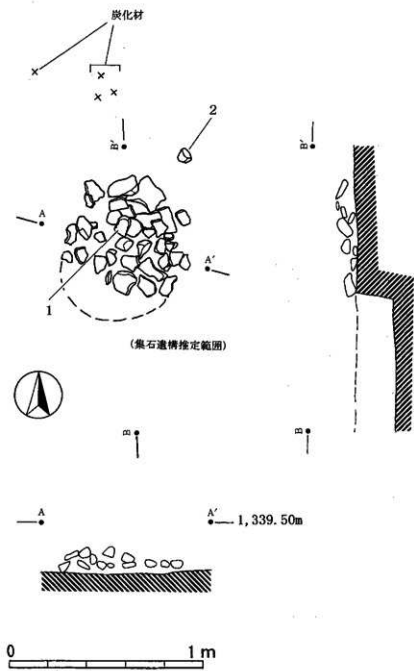
1,339.50m

KRD225グリッド土層説明

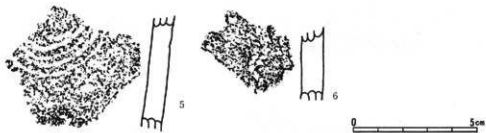
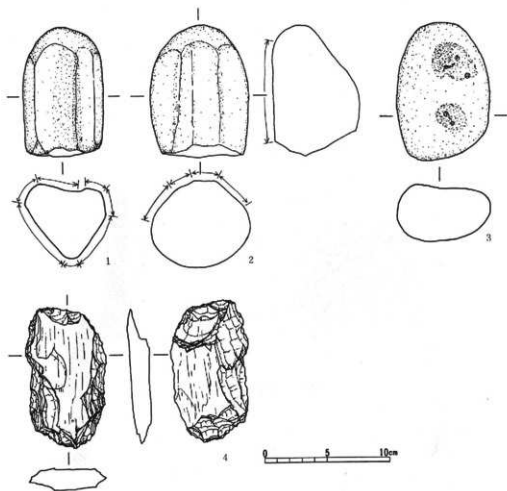
- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
ややバサバサしている。
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
白色粒子若干含む。ボロボロ崩れる。
- 5 暗茶褐色土
火山砂ブロックの土によく似ている。しまり非常に強くスコリア粒・黒色粒子多量に含む。白色粒子わずかに含む。
- 6 暗黄褐色土
5より明。白色粒子多量に含む。スコリア粒やや少ない。
- 7 暗黄褐色土
粘土質でやや白味がかかる。5・6より柔らかく、粘性強い。スコリア粒若干含む。

0 2 m

第21図 KRD225グリッド土層断面図 (S=1/40)



第 22 図 KRD225グリッド集石遺構 (S=1/20)



第23図 KRD225グリッド出土遺物

ずこの地点が常に陥し穴を仕掛けるポイントとしての条件を有していたことを示すものと考えられる。むしろその条件とは、狼の対象となる動物の行動パターンを反映しているものであろう。また、2基の陥し穴状遺構は長軸方位が約90度異なっていることについては、動物の行動パターン(ケモノ道等)の変化が反映されたという可能性の他に、それぞれの陥し穴を仕掛けた人間の、動物の行動パターンに対する認識の差や、狼の技術の差が反映されている可能性もあり、興味深い。

KRD225グリッド

KRD224グリッドの南側、尾根の瘦せた先端部に位置する。尾根はここから傾斜を急に強めて檜沢川側へと下っていく。また、本グリッドから尾根筋に20~30m下った辺りでは地山の安山岩の大きな礫が地表の所々に顔をのぞかせている。本グリッドでは表土・漸移層とも薄い堆積だが、それ以下では瘦せ尾根上であるにも関わらず、2m以上のローム土の堆積が確認された。

最初2m×2mの規模で設定して掘り下げを開始したが、グリッド北側で集石遺構を検出したため、北側に拡張を行った。集石遺構は、検出時に南側の一部を崩してしまったが直径約70cmほどの円形になると思われる。握り拳大~10数cm大の礫を並べているが、傾向としてやや大きめで平べったい礫が外周に、小さめの礫が内側に使用されているように見える。礫は表面が赤化したものが多い。全体的に下面より上面のほうが、外周側よりも中心側の方が赤化が著しい様子が観察された。使用されている礫は安山岩質の自然礫で、おそらく、尾根のもう少し先(下)から集めてきたものであろう。礫の赤化の原因を確定することができないが、前述したような赤化の状況を考えて、この集石の上で火を使用したことによる被熱の結果と考えたい。同様に赤化の状況から、焼けた石を他の場所からここに運んできたのではなく、ここに集めた礫の上で直接火を焚いたという状況が想定できる。集石遺構と関係あるものであるかどうかは明確ではないが、集石遺構の北側から集石遺構とほぼ同じレベルで5mm大ほどの炭粒が数点検出されている。

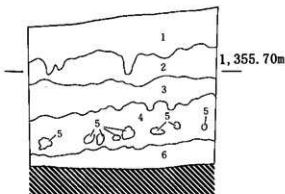
遺物としては磨石・凹石類3点、打製石斧1点、土器片2点が出土した。磨石・凹石類のうち2点は断面が三角形に近く、稜が磨面として利用されているほか、一端に折断面を有する特殊磨石様のものである。2は砂岩製、1と3は安山岩製で、1は集石遺構から出土した。打製石斧は片岩製のものである。土器片2点は集石遺構周辺から出土したもので、いずれも茶褐色で胎土に金雲母粒を含み、焼成は良好である。1点は半截竹管文、もう1点は結節縄文が施されているが、胎土が酷似していることから同一個体の可能性がある。

集石遺構の時期は、出土土器から縄文時代中期と考えられる。

KRD226グリッド

KRD219グリッドとKRD220グリッドの中間に位置する。土層堆積状況もこれらの試

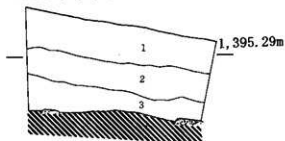
KRD226グリッド



KRD226グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ゾフトローム)
白色粒子若干含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
スコリア少量含む。
- 5 火山砂ブロック
- 6 暗黄褐色土
白色粒子・〜5mm大スコリア含む。特にしまり強い。

KRD227グリッド



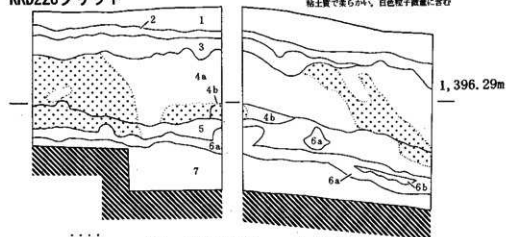
KRD227グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ゾフトローム)
やや白味がかり、細多量を含む。

KRD228グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
ロームブロック少量含む。
- 3 黄褐色土 (ゾフトローム)
黒色土粒含む。
- 4 a 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
硬質で所々にクラックが入る。クラック部分は空隙となっており、黒色土等が流入している。スコリア粒少量含む。
2枚以上に分離できる可能性もある。
- 4 b 灰黄褐色土
粘土質で柔らかめ、白色粒子少量を含む

KRD228グリッド



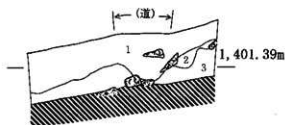
.....クラックによる空隙



- 5 暗黄褐色土
硬質でやや砂質っぽい。褐色バミスを多量に含む。
- 6 a 褐色バミス純層
- 6 b 灰黄褐色粘土層
- 7 灰褐色粘土層
粘性非常に強い。やや水っぽい。
6層との境界ははっきりとしており、この境界は地骨りによるものであるらしい。

第24図、KRD226~228グリッド土層断面図

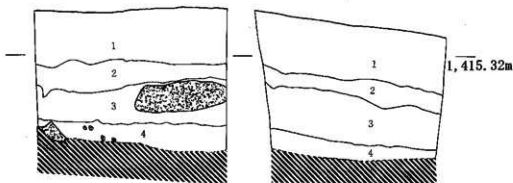
KRD229グリッド



KRD229グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
白色味を帯びている。礫多く含む。

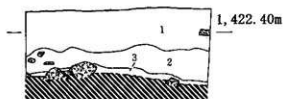
KRD230グリッド



KRD230グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
礫含む。やや白味がかる。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
礫多量に含む。やや軟質。

KRD231グリッド



KRD231グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
白色味を帯びている。礫多量に含む。



第 25 図 KRD229～231グリッド土層断面図

掘坑と同様である。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD227グリッド

KRD201グリッドから用水路を挟んで北側にあたる。

現地表下約1mで地山の安山岩質礫が多量に検出された。ロームの堆積は比較的薄いらしい。遺構・遺物は検出されていない。

KRD228グリッド

KRD227グリッドの北側に位置する。

尾根の東側斜面に窪地状にややえぐられたような地形が確認されたため、その中心部あたりに設定した。

土層堆積状況は他の試掘坑と大きく異なる。表土は薄く、ソフトロームは黒色土粒を含むやや汚い土で、その下層のハードローム層には大きなクラックが走っている。クラック部分は大きな空隙となって黒色土やローム土の混土層が流入している。また、ハードローム中には橙色バミスの純層や粘土層が入るなど、複雑な状況を示す。

大規模なクラックの入り方などからこの窪地は尾根の斜面が地滑りを起こして形成されたものであると考えられる。橙色バミスの層はこれまでに他の地点でも検出されておらず、かなり古い時期の堆積層であることが予想される。

KRD229グリッド

KRD227グリッドの西に位置する。北側小ピークの傾斜がかなりきつい南斜面の中程にあたる。ここには等高線に沿って作業用の道があり、堆積土層も乱れ気味であった。この辺りは傾斜が急であるためか、ロームの堆積があまり見られず、現地表下数10cmのソフトローム中で多量の礫を含む層を検出した。

KRD230グリッド

KRD227グリッドの北西側、尾根筋を北側小ピークの頂上方向に登っていく途中に位置する。KRD227・229グリッド同様にロームの堆積は厚くないらしく、多量の安山岩礫を含む層を確認している。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD231グリッド

北側の小ピークの頂部に位置する。

ここは南側の小ピークとは異なりロームの堆積は薄く、ハードロームの堆積は認められない。
現地表下約80cmで地山の礫を多量に検出した。

遺構・遺物ともに検出されていない。

KRD232グリッド

北側小ピークの北西側の縁に位置する。北側小ピークはここら辺りから一旦くびれたのち、北側の斜面へと通じている。ここまで来ると再びロームの堆積が厚くなって来るようである。

遺構・遺物ともに検出されていない。

KRD233グリッド

くびれ部の西側斜面への落ち際に位置する。

土層堆積の状況はKRD232グリッドと同じである。

本グリッドの黒色土中からは黒曜石製の石鏃が1点検出された。この周辺が縄文時代に狩猟場として利用されていたことを窺わせる。

KRD234グリッド

くびれ部の中央、鞍部の最も標高の低い地点に位置する。

土層堆積状況は周辺の試掘坑と同様であり、遺構遺物は検出されていない。

KRD235グリッド

KRD233グリッドの北東側の斜面の落ち際に位置する。

遺構・遺物ともに検出されていない。

KRD236グリッド

KRD235グリッドの東側、斜面落ち際に等高線に沿って1m×3mの試掘坑を設定したが、遺構・遺物とも検出されていない。

KRD237グリッド

鞍部の西側斜面への落ち際に位置する。

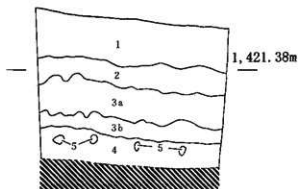
1m×3mで設定したが遺構・遺物とも検出されていない。

KRD238グリッド

KRD237グリッドの北側に位置する。

土層堆積状況はKRD233グリッドなどと同様である。

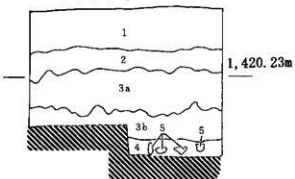
KRD232グリッド



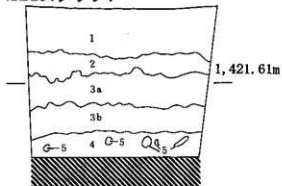
KRD232～234グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
ハードローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック

KRD233グリッド

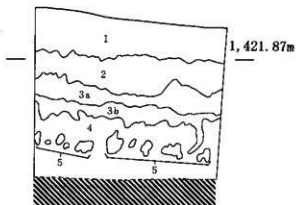


KRD234グリッド

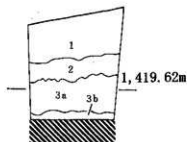


第26図 KRD232～234グリッド土層断面図

KRD235グリッド



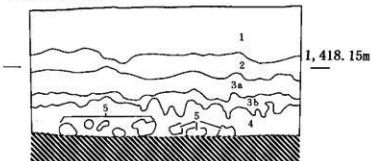
KRD236グリッド



KRD235～237グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸砂層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
ハードローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック

KRD237グリッド



第 27 図 KRD235～237グリッド土層断面図

遺構・遺物ともに検出されていない。

KRD239グリッド

KRD238グリッド北側に位置する。幅広い尾根筋の西側斜面への落ち際にあたり、ここから西に向けて斜面は緩やかに傾斜を増していく。

陥し穴状遺構の検出を想定して1m×3mの試掘坑を等高線に沿って設定したが、遺構・遺物ともに検出されていない。

KRD240グリッド

本年度調査区の尾根は、北側小ピークの北側で一旦くびれた後、幅の広い斜面となってジャコッバラNo.1遺跡の方向（北）へと登っていく。KRD240グリッドはこの斜面の中央付近に位置する。幅の広い尾根筋の稜にあたる。

土層堆積状況は周辺グリッドと共通している。ソフトロームは3a・3bの2層に分層することができ、3b層はハードロームの小ブロックを多く含んでいる。また、この斜面全体では火山砂ブロックが安定して検出されている。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD241グリッド

KRD231グリッドの西に位置する。章の始めてふれたように、本年度調査区のこの尾根には、南側から谷が1本入ってきているため、末端が二股に分かれるような形になっている。北側の小ピークの南で東側の尾根筋と西側の尾根筋に分かれていくが、本グリッドは西側の尾根筋を少し下った場所にあたる。

土層堆積状況は小ピーク頂部付近と同様にロームの堆積があまり見られず、現地地表60cmほどで地山の安山岩質の礫を検出した。

遺構・遺物は検出されていない。

なお、調査スケジュールの都合により、この尾根筋のこれより西側の区域については来年度以降試掘調査を進めていくことになっている。

KRD242グリッド

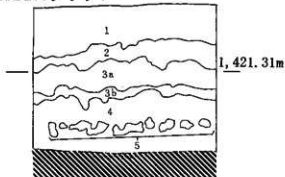
KRD236グリッドの北側に位置する。東側斜面への落ち際付近にあたる。

土層堆積状況はKRD240グリッドなどと同様である。遺構・遺物は検出されていない。

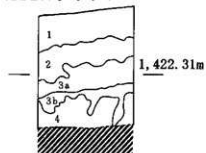
KRD243グリッド

KRD236グリッドの北側に位置する。KRD242グリッド同様に東側の急斜面への落ち

KRD238グリッド



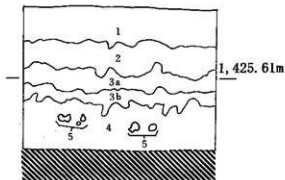
KRD239グリッド



KRD238～240グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
ハードローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック

KRD240グリッド



第28図 KRD238～240グリッド土層断面図

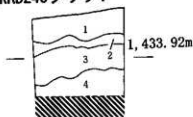
KRD241グリッド



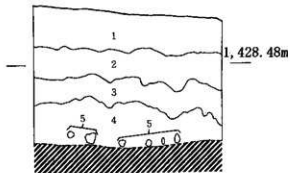
KRD241グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
礫多量に含む。

KRD243グリッド



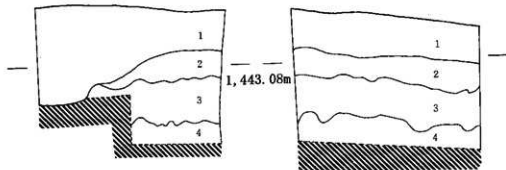
KRD242グリッド



KRD242～244グリッド土層説明

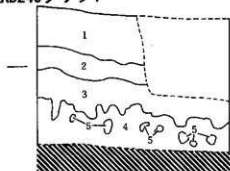
- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック

KRD244グリッド



第29図 KRD241～244グリッド土層断面図

KRD245グリッド

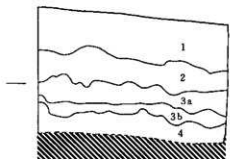


1,435.94m

KRD245グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック

KRD246グリッド



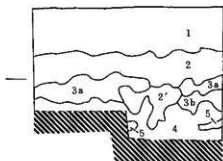
1,444.29m

KRD246・247グリッド土層説明

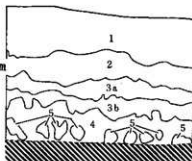
- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 2' 暗茶褐色土 (立木痕?)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
ハードローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック

0 2 m

KRD247グリッド

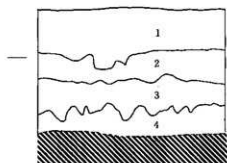


1,442.79m



第30図 KRD245~247グリッド土層断面図

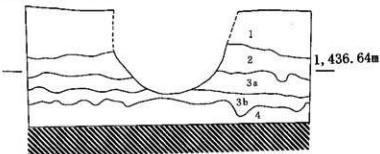
KRD248グリッド



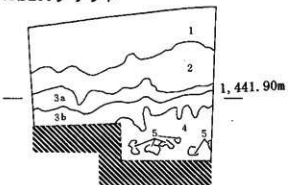
KRD248グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 黄褐色土 (ソフトローム)
- 4 暗黄褐色土 (ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。

KRD249グリッド



KRD250グリッド



KRD249・250グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
ハードローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック



第31図 KRD248~250グリッド土層断面図

際にあたる。ここには東側斜面側からごく小規模な谷が入っており、本グリッドはその谷に直交するように1m×3mで設定した。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD244グリッド

KRD243グリッドの北東側に位置する。幅広い尾根筋の斜面をほぼ登り切った辺りであり、この尾根はここから一旦傾斜が緩くなって南北方向に延びる台地状になる。

土層堆積状況は他のグリッドとほぼ同じだが、火山砂ブロックの検出は見られなかった（もっと深い位置にある可能性もある）。

北側の壁際に黒色土の落ち込みを検出したが、精査の結果風倒木痕らしいことがわかった。ただし、「ロームマウンド」的なローム土の浮き上がりは確認されていない。

遺物は検出されなかった。

KRD245グリッド

KRD244グリッドのやや南東側、やはり東側斜面への落ち際に位置する。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD246グリッド

KRD245グリッドの北、東側の急斜面への落ち際に位置する。

土層堆積状況は周囲のグリッドと同様である。東側の斜面が檜沢川によって非常に急な傾斜となっている点は南側小ピークの東縁辺部と同様だが、この辺りは南側小ピークのように水気のないバサバサしたロームは認められない。おそらく南側小ピークのように独立丘状の地形ではなく、ジャコッパNa1遺跡方向へと尾根（台地）が通じているためと考えられる。

遺構・遺物ともに検出されていない。

KRD247グリッド

KRD244グリッドの西に位置する。

土層断面で漸移層（2層）中に樹木の根のあとまたは倒木痕と思われる落ち込みが検出されている。

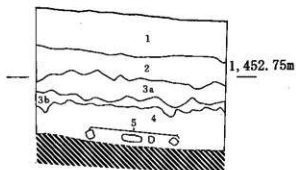
遺構・遺物は検出されていない。

KRD248グリッド

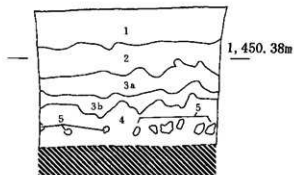
KRD240グリッドの北側に位置する。尾根の中央部にあたる。

遺構・遺物は検出されていない。

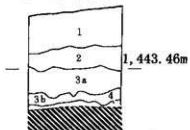
KRD251グリッド



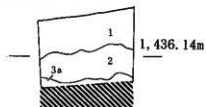
KRD252グリッド



KRD253グリッド

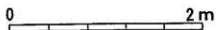


KRD254グリッド



KRD251～254グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
- 2 暗茶褐色土 (漸移層)
- 3 a 黄褐色土 (ソフトローム)
- 3 b 黄褐色土 (ソフトローム)
ハードローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗黄褐色土 (以下ハードローム)
橙色スコリア・白色粒子含む。
- 5 火山砂ブロック



第 32 図 KRD251～254グリッド土層断面図

KRD249グリッド

尾根の中央から西側に寄った南西向き斜面に位置する。

この斜面は尾根の南西側から入り込む緩やかな谷への降り口にあたるため、陥し穴状遺構の存在を想定して1m×3mの規模で設定した。グリッド北側に黒色土の落ち込みを確認したため、一部拡張掘り下げを行ってプランの確認を試みたが、結局直径1mほどの風倒木痕であることがわかった。ただし、KRD244グリッド検出のもの同様、覆土中のローム土の浮き上がりは観察されなかった。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD250グリッド

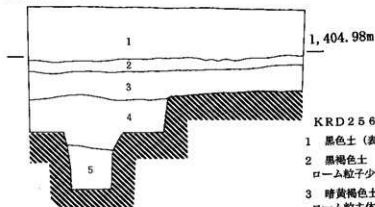
KRD248グリッドの北側、尾根の中央に位置する。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD251グリッド

今回の調査区では最も標高の高い地点に位置し、すぐ北側は(宗)創価学会の研修道場となって

KRD256グリッド



KRD256グリッド土層説明

- 1 黒色土 (表土)
 - 2 黒褐色土
ローム粒子少量含む
 - 3 暗黄褐色土
ローム粒主体の層
 - 4 黒色土
2より暗。ローム粒わずかに含む。
 - 5 暗茶褐色土
ローム粒多く含む。安山岩質のくされ小礫
(~3cm大) 多く含む。
- ※いずれの土層も粒状細かく均一で、境界もはつきりしている。
流れ込みによる堆積土層。



第33図 KRD256グリッド土層断面図

いるが、この敷地内で旧石器と陥し穴状遺構が出土している(ジャコッバラNo.1遺跡)。ここから北側は、傾斜が一旦緩くなって広い台地となり、さらに北側のジャコッバラNo.8遺跡へと通じている。

土層堆積状況は周囲と同じであり、遺構・遺物は検出されていない。

KRD252グリッド

KRD251グリッドの西側に位置する。

土層堆積状況はKRD251グリッドと同じで、遺構・遺物は検出されていない。

KRD253グリッド

区域北西端、西側の谷への落ち際あたりに位置する。1m×3mで設定を行った。

土層堆積状況はKRD252グリッドと同様で、遺構・遺物は検出されていない。

KRD254グリッド

KRD249グリッドとKRD253グリッドの中間に位置する。1m×3mで設定を行った。

土層堆積状況はKRD253グリッドと同様で、遺構・遺物は検出されていない。

KRD255グリッド

調査区西側の谷を若干下った地点にあたる。ソフトローム下層まで掘り下げを行った。

遺構・遺物は検出されていない。

KRD256グリッド

西側斜面に入り込んでいる谷の底部付近に位置する。この谷の底部は比較的ゆるやかな傾斜になっており、西側の緩やかな斜面へと通じている。

この谷を水平距離で20～30m下った辺りには地山の安山岩礫が所々に顔を出しているような状況であったため、当初土層堆積はあまり厚くないことが予想されていたが、掘り下げを行った結果、かなり厚い流れ込みの土層堆積があることがわかった。

調査スケジュール等の都合上、基盤まで掘り下げることができなかったが、黒色土やローム土混じりの細かく均一な層が、交互に堆積している。各土層間の境界は非常にはっきりとしていること、ほぼ水平堆積に近いような状態で堆積していることなどから、谷上部や東西の斜面からの流れ込みによる堆積であるものと思われる。約2m掘り下げを行ったが、ロームの堆積を確認することはできなかった。

遺構・遺物とも確認されていない。

IV 調査のまとめ

1. 検出された遺構・遺物及び遺跡立地について

旧石器時代の遺跡立地について

KRD207・208・212各グリッドにて石器ブロックが検出されている。石器類はすべて黒曜石製である。石器類は、同一ブロック内に属すると思われる遺物でも出土レベルにかなり上下差がある。出土層位にも幅があり、漸移層～ハードローム上層にわたって出土する場合が多かった。同様の傾向は霧ヶ峰における他の遺跡においても一般的に認められる。これまでの調査で得られたデータにより、霧ヶ峰南麓の土層堆積状況や基本層序についてはある程度把握できつつあるが、上述のような現象や地点間の堆積土層の対比等の問題については、本地域におけるローム層の堆積過程や堆積後の物理的な影響についての分析を進めていく必要がある。

霧ヶ峰南麓地域の各尾根筋は階段状に延びており、解析の影響等も受けて独立丘状の小ピークが所々に認められるが、これまでの調査ではKRD212グリッドのように小ピークの頂部やKRD207・KRD208グリッドのように小ピーク手前の鞍部から遺物が検出される場合が多い。一方、本年度調査区の北側小ピークからジャコッバラNa1遺跡にかけての広い斜面については遺物が検出されていない。この地区については試掘坑の設定密度が小さいことも考慮に入れる必要があるが、旧石器時代の遺跡立地に関する傾向がある程度明らかになりつつあるのかもしれない。

縄文時代の遺構について

KRD224グリッドでは2基の陥し穴状遺構が確認されている。ここは尾根筋の先端部落ち際であり、西側の谷を考慮に入れた陥し穴を想定することができよう。ジャコッバラNa1・Na6遺跡をはじめ、谷を取りまくように数基が並ぶものと、KRD224グリッドなどのように覆せた尾根の頂部付近に構築されるものがこれまでに明らかになっているが、この立地の差が何を反映したものであるのか、今後分析を進めて明らかにしていく必要がある。

KRD225グリッドでは集石が1基検出されている。出土状況からはここに礫を並べた後、集石の上で火を用いた様子がかがえる。遺構の性格については明かでないが、磨石や凹石、打製石斧が検出されており、おそらく山麓地域の利用に関わる何らかの遺構であると考えられる。

KRD233グリッドでは石鎌が1点検出された。ここは北側小ピークから背後の尾根へと続く鞍部にあたる。縄文時代の狩猟における土地利用のあり方を考える上で貴重な資料である。

今回遺構・遺物が検出された南側小ピークとその鞍部周辺をジャコッバラNa13遺跡、北側小ピークの鞍部周辺をジャコッバラNa14遺跡としたが、今後の調査で遺跡範囲の変更も考えられる。

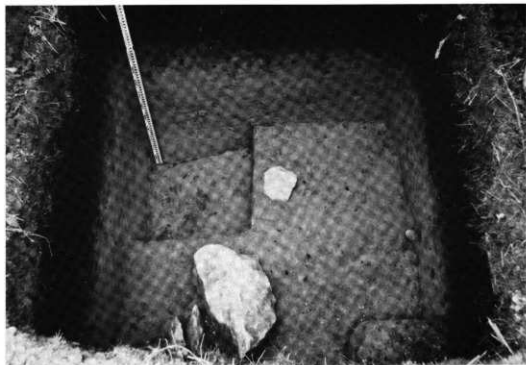
第2表 平成6年度KRD地区試掘グリッド一覧表

グリッド名	規模	検出遺構(時代)	出土遺物	備考
KRD201	2m×2m			
KRD202	2m×2m			
KRD203	2m×2m			
KRD204	2m×2m			
KRD205	2m×2m			
KRD206	2m×2m			
KRD207	2m×2m	石器ブロック(旧石器時代)	連続の小剥離を有する剥片1, 2 次加工を有する剥片1	
KRD208	2m×2m	石器ブロック(旧石器時代)	連続の小剥離を有する剥片1, 剥片類4, 原石1	
KRD209	2m×2m			
KRD210	2m×2m			
KRD211	2m×2m			
KRD212	2m×2m	石器ブロック(旧石器)	台形礫石器1, 剥片5	
KRD213	2m×2m			
KRD214	2m×2m			
KRD215	2m×2m			
KRD216	2m×2m			
KRD217	2m×2m			風倒木痕
KRD218	2m×2m			
KRD219	2m×2m			
KRD220	2m×2m			
KRD221	2m×2m			
KRD222	2m×2m			
KRD223	2m×2m			
KRD224	2m×3.4m	陥し穴状遺構2基(縄文)		一部拡張
KRD225	2m×3.3m	集石遺構1基(縄文)	燧石1, 特殊磨石2, 打製石斧1	一部拡張
KRD226	2m×2m			
KRD227	2m×2m			
KRD228	2m×2m			
KRD229	1m×2m			
KRD230	2m×2m			

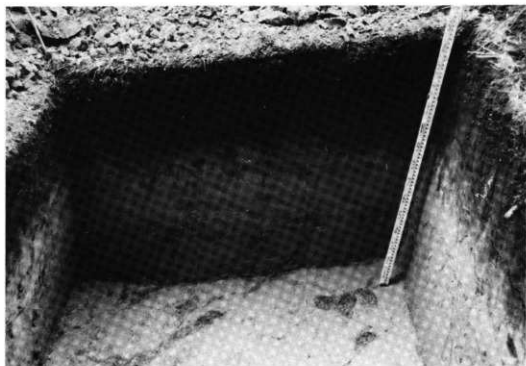
グリッド名	規模	検出遺構 (時代)	出土遺物	備考
KRD231	2m×2m			
KRD232	2m×2m			
KRD233	2m×2m		石礎 1	
KRD234	2m×2m			
KRD235	2m×2m			
KRD236	1m×3m			
KRD237	1m×3m			
KRD238	2m×2m			
KRD239	1m×3m			
KRD240	2m×2m			
KRD241	1m×3m			
KRD242	2m×2m			
KRD243	1m×3m			
KRD244	2m×2m			風倒木痕
KRD245	1m×3m			一部拡張
KRD246	2m×2m			
KRD247	2m×2m			
KRD248	2m×2m			
KRD249	2m×2m			一部拡張 風倒木痕
KRD250	2m×2m			
KRD251	2m×2m			
KRD252	2m×2m			
KRD253	1m×3m			
KRD254	1m×3m			
KRD255	2m×2m			
KRD256	1m×3m			

報告書抄録

ふりがな	じゃこつぱら 5						
書名	ジャコッパ V						
副書名	平成6年度長野県黒曜石原産地遺跡分布調査概報 (諏訪市ジャコッパ遺跡群遺跡分布予備調査3)						
巻次							
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	第30集						
編著者名							
編集機関	諏訪市教育委員会						
所在地	〒392 長野県諏訪市高島 1-22-30 TEL0266 (52) 4141						
発行年月日	1995年 3月22日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ジャコッパ 遺跡群	諏訪市 大字四賀 森ヶ峰	20, 206	36° 03' 46"	138° 10' 00"	1994年 9月5日 ~10月27日	試験坑 56か所	遺跡分布 予備調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
ジャコッパ 遺跡群	生産遺跡	旧石器 縄文	石器ブロック 3 陥し穴状遺構 2 集石遺構 1		黒曜石製石器類 石鏃 磨石・凹石 打製石斧	新たに2か所の 遺跡を発見 (ジャコッパ No.13 及びNo.14遺跡)	



1. 203グリッド



2. 206グリッド土層堆積状況



3. 207グリッド遺物出土状況



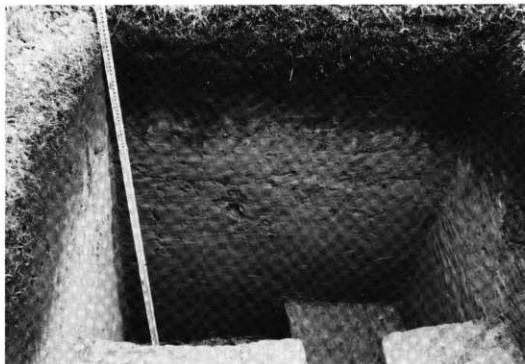
4. 207グリッド土層堆積状況 (完掘状態)



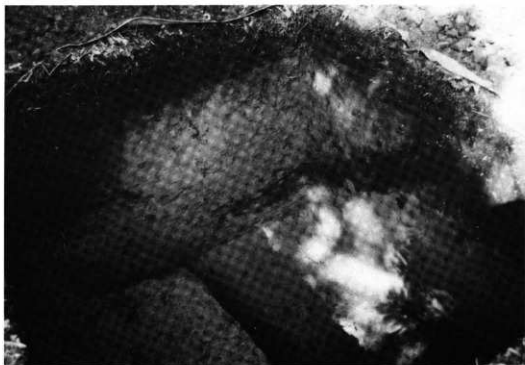
5. 208グリッド遺物出土状況



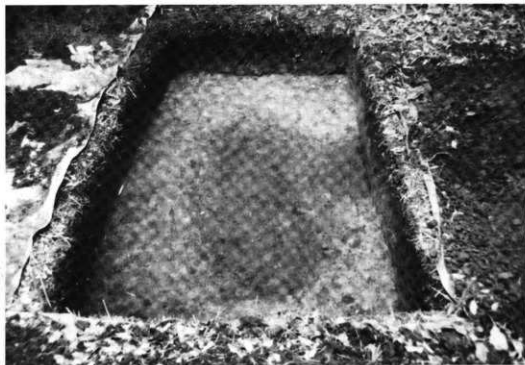
6. 212グリッド遺物出土状況



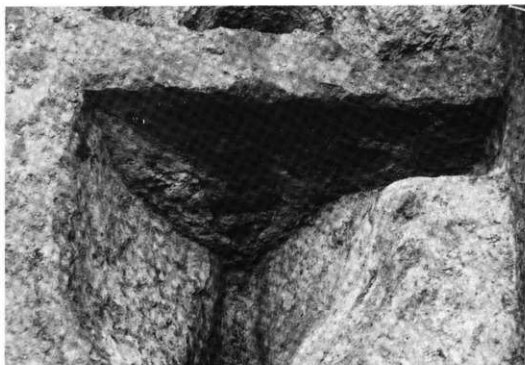
7. 214グリッド(深掘)土層堆積状況



8. 217グリッド風倒木痕土層断面



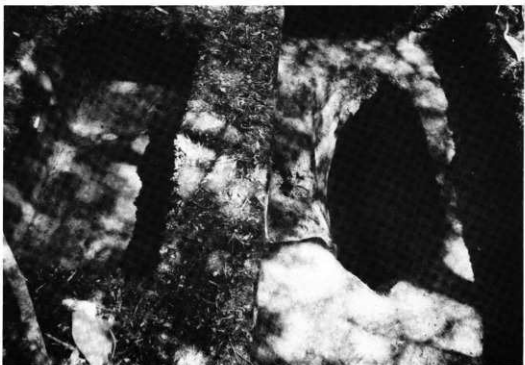
9. 224グリッド陥し穴状遺構検出状況



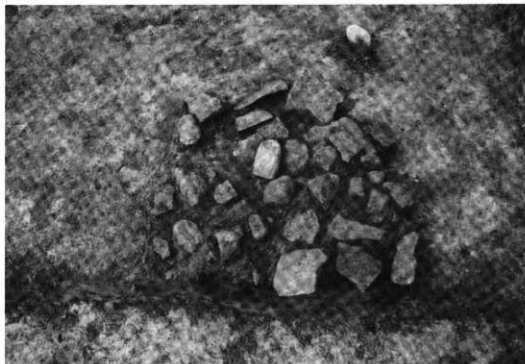
10. 224グリッド陥し穴状遺構土層堆積状況



11. 224グリッド陥し穴状遺構完掘状況



12. 224グリッド全体の状況



13. 225グリッド集石遺構



14. 227グリッド土層堆積状況



15. 228グリッド土層堆積状況



16. 229グリッド



17. 229グリッド周辺の状況



18. 230グリッド



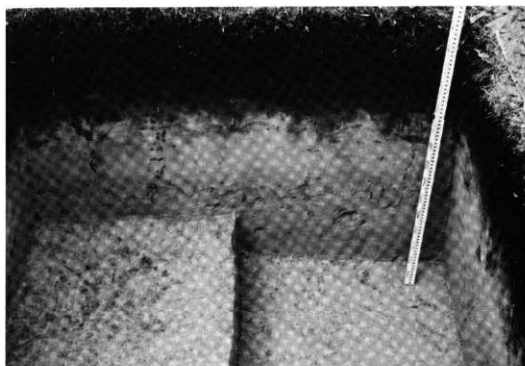
19. 231グリッド



20. 233グリッド土層堆積状況



21. 235グリッド土層堆積状況



22. 238グリッド土層堆積状況



23. 241グリッド



24. 249グリッド (風倒木痕)

ジャコッバラV

—平成6年度長野県黒曜石原産地遺跡分布調査概報—

平成7年3月22日

編集 諏訪市高島1-22-30
発行 諏訪市教育委員会
印刷 (株)マルジョー上田印刷
